

表 5.1-1 本事後調査報告書における重要な種の選定基準

No.	項目	指定根拠/法律
1	天然記念物 【対象：主に動物、植物群落】	「文化財保護法」(昭和25年法律第214号) 「沖縄県文化財保護条例」(昭和51年条例第12条) 【カテゴリー】国指定特別天然記念物、国指定天然記念物、沖縄県指定天然記念物
2	種の保存法 【対象：主に植物、動物】	「絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律」 (平成4年法律第75号) 【カテゴリー】国内希少野生動植物、国際希少野生動植物、緊急指定種
3	環境省レッドリスト 【対象：主に植物、動物】	「第5次レッドリスト(植物・菌類)の公表について(お知らせ)」 (2025年・環境省) 【カテゴリー】 CR+EN: 絶滅危惧I類(絶滅の域に瀕しているもの) CR: 絶滅危惧IA類(ごく近い将来に野生での絶滅の危機が高いもの) EN: 絶滅危惧IB類(CR程ではないが、近い将来に野生での絶滅の危機が高いもの) VU: 絶滅危惧II類(絶滅の危機が増大している種のもの) NT: 準絶滅危惧(存続基盤が脆弱なもの) DD: 情報不足(評価するだけの情報が不足しているもの) LP: 絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立する個体群で、絶滅のおそれが高いもの)
4	環境省海洋レッドリスト 【対象：魚類、サンゴ類、甲殻類、軟体動物(頭足類)、その他無脊椎動物】	「環境省海洋生物レッドリスト2017」(2017年・環境省) 【カテゴリー】環境省レッドリストと同様。
5	水産庁レッドデータブック 【対象：水生植物、水生哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、甲殻類、軟体動物】	「日本の稀少な野生生物に関するデータブック」 (1998年・水産庁) 【カテゴリー】 絶滅危惧: 絶滅の危機に瀕しているもの 危急: 絶滅の危険が増大しているもの 希少: 存続基盤が脆弱なもの 減少: 明らかに減少しているもの 種減少傾向: 長期的に見て減少傾向にあるもの 普通: 自然変動の範囲にあるもの
6	沖縄県レッドデータブック 【対象：植物、動物】	「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータおきなわ)第3版-動物編」(2017年・沖縄県) 「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータおきなわ)第3版-菌類編・植物編」(2018年・沖縄県) 【カテゴリー】環境省レッドリストと同様。
7	沖縄県希少野生動植物 【対象：植物、動物】	「沖縄県希少野生動植物保護条例」(令和7年・沖縄県条例第10号) 「沖縄県希少野生動植物保護条例施行規則」 (令和3年・沖縄県条例規則第19号) 【カテゴリー】希少野生動植物
8	干潟の絶滅危惧種 【対象：底生生物】	「干潟の絶滅危惧動物図鑑-海岸ベントスのレッドデータブック」 (2012年・日本ベントス学会編) 【カテゴリー】環境省レッドリストと同様。
9	WWF-J 【対象：底生生物】	「WWF Japan Science Report vol.3 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状」(1996年・WWFジャパン) 【カテゴリー】 絶滅: 野生状態でどこにも見当たらなくなった種 絶滅寸前: 人為的影響の如何に関わらず個体数が少なく、放置すればやがて絶滅すると推定される種 危険: 絶滅に向けて進行しているとみなされる種。 希少: 特に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種。 普通: 個体数が多く普通に見られる種。 状況不明: 最近の生息状況が乏しい種。

表 5.1-2 令和7年度に実施した事後調査項目及び調査方法(存在・供用時)

影響要因		調査項目	調査方法
環境要素の区分	影響要因の区分		
海域植物	し尿処理施設の稼働	海域植物の生育状況	5×5mの定点及び周辺域で目視観察を行い海草藻類の生育状況を記録
海域動物		海域動物の生息状況	5×5mの定点及び周辺域で目視観察を行い大型底生生物、サンゴ類(補足で魚類)の生息状況を記録
海域生態系	し尿処理施設の稼働	アジサシ類	陸上や船上から双眼鏡等を用いた目視観察でアジサシ類の繁殖状況等を記録
		ヒジキ	測線調査、坪刈り調査等を行いヒジキの生育状況等を記録

第6章 事後調査結果の概要

6.1 海域植物

6.1.1 海域植物の生育状況

1) 調査時期

調査は表 6.1.1-1 に示す時期に行いました。

表 6.1.1-1 調査時期

季節	調査日時
夏季	令和7年9月18日、19日
冬季	令和8年1月15日、16日

2) 調査地点

調査はし尿処理施設の処理水の放流先周辺の海域5地点で実施しました。その位置は図 6.1.1-1 に、調査地点の緯度・経度は表 6.1.1-2 に示すとおりです。

表 6.1.1-2 調査地点の緯度・経度

調査地点	北緯	東経
St.1		
St.2		
St.3		
St.4		
St.5		

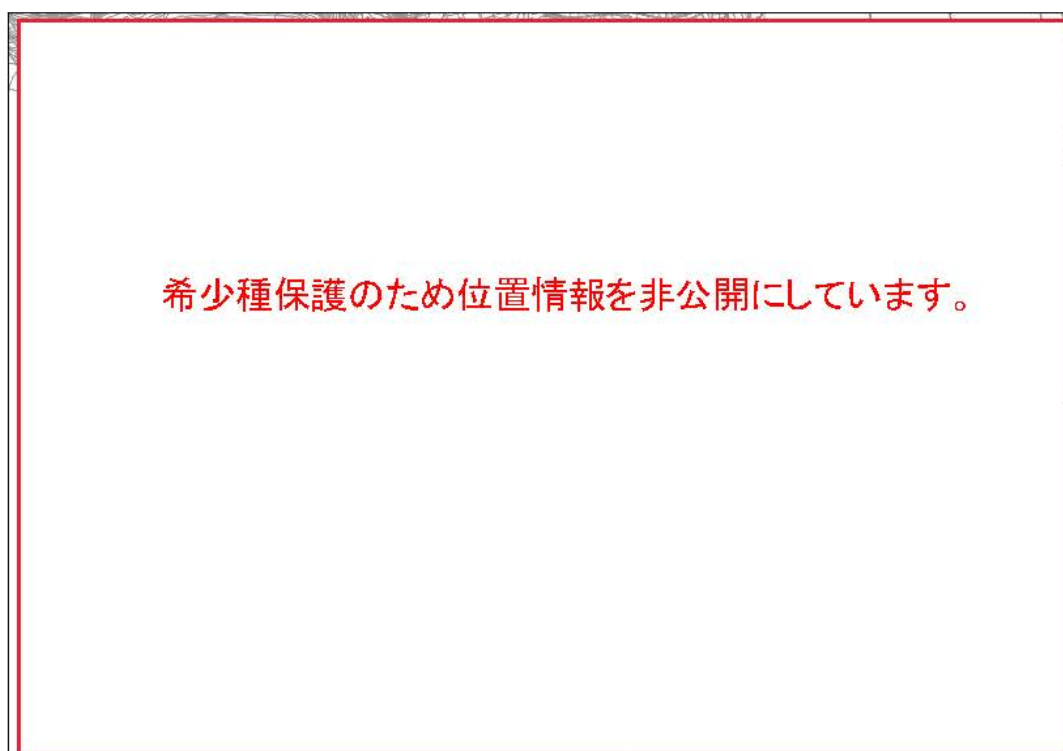


図 6.1.1-1 調査地点

3) 調査方法

調査は各調査地点に 5m×5m の方形枠（コドラート）を設置し、枠内の出現種、被度及び海草類と重要な海藻類の生育状況（位置、範囲、写真撮影等）を記録しました。

また、各コドラートによる環境影響の検証が可能となる様、コドラートの周辺約 10m 四方の海域植物種について出現種を記録しました（図 6.1.1-2 参照）。

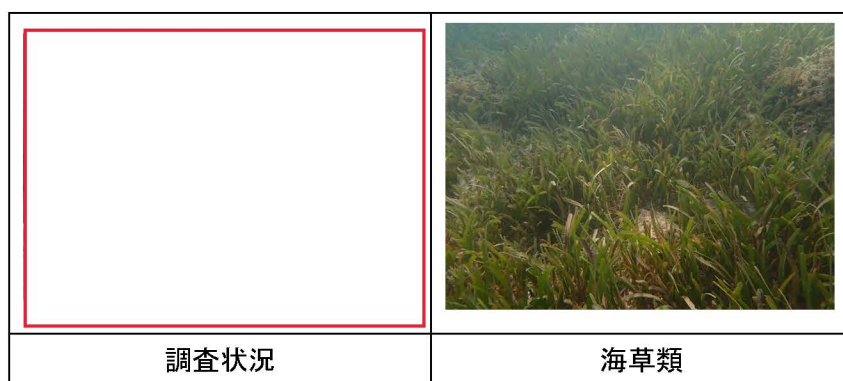


図 6.1.1-2 調査状況

4) 調査結果

(1) 出現種類数と確認被度

海域植物の生育状況調査結果は表 6.1.1-3 に、重要な種の確認状況は表 6.1.1-4 に、確認された重要な種は図 6.1.1-3 に、各調査地点の海域植物の生育状況(面積・被度)は表 6.1.1-5 に、コドラート(5×5m)内の確認状況は図 6.1.1-4～図 6.1.1-13 に示すとおりです。

海草藻類の確認種数は夏季が 25～36 種(周辺 27～31 種)、冬季が 33～45 種(周辺 37～47 種)であり、枠内では夏季、冬季ともに St.4 で最も多くの種が確認されました。全地点の合計は 91 種であり、分類群別では藍藻植物が 4 種、緑藻植物が 35 種、褐藻植物が 18 種、紅藻植物が 31 種、種子植物が 3 種でした。

季節別では全ての地点において冬季の方が多く出現していました。

海草藻類の被度は夏季が 45～80% (うち海草類 0～35%)、冬季が 50～80%(うち海草類 0～25%)であり、夏季、冬季ともに St.2 が最も被度が高い結果でした。

重要な種は枠内及び周辺域でヤバネモク、マツバウミジグサ等の計 10 種を確認しました。

枠内の夏季から冬季への重要な種の生育面積の変化は St.4 を除き全体的に増加しており、St.1 の海藻類が 0.87 m²から 1.02 m²へ、St.2 の海藻類が 1.12 m²から 2.82 m²へ増加、St.3 の海藻類が 0.31 m²から 1.58 m²へと増加、St.5 の海藻類が 0.29 m²から 1.98 m²へ増加していました。St.4 については海草藻類が 11.20 m²から 0.74 m²へ減少していました。

枠内の夏季から冬季への重要な種の被度の変化は St.4 を除いて増加しており、St.1 が 10%から 20%、St.2 が 30%から 55%へ、St.3 が 10%から 25%へ、St.5 が 5%から 30%へと増加していました。St.4 は 45%から 30%で減少傾向でした。

表 6.1.1-3 海域植物の生育状況調査結果(その1)

No.	門	綱	目	科	和名	学名	夏季 (R7.9)										冬季 (R8.1)									
							St. 1		St. 2		St. 3		St. 4		St. 5		St. 1		St. 2		St. 3		St. 4		St. 5	
							枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺
1	藍藻植物	藍藻	ネンジュモ	ユモ	リンゴヒア属	<i>Lyngbya</i> sp.	r	○			○	r			○	○		○	○	r	○		○	r	○	
2					ホトシシム属	<i>Phormidium</i> sp.	r					r			r										r	
3					ユモ科	Oscillatoriaceae						r			r											
4					藍藻綱	CYANOPHYCEAE	5	○	r	○	5	○	+	○	+	○	5	○		○	r	○	r	○	r	○
5	緑藻植物	緑藻	アサギク	ウチリウ	ウチリウ	<i>Anadyomene wrightii</i>					r				r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	
6			ウチリウ	アサギク	アサギク	<i>Boodlea coacta</i>									r	○	r	○	r	○	r	○		○	○	
7					ウチリウ	<i>Cladophoropsis vasa-hirsutiformis</i>				○				○												
8				ハノア	ウチリウ	<i>Dictyosphaeria cavernosa</i>					r			r	○	r	○	r	○	r	○	r	○		○	
9					ウチリウ	<i>Dictyosphaeria versluisii</i>	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○
10					ハノア	<i>Ventricaria ventricosa</i>								○									r	○	○	
11					ハノア	<i>Valonia</i> sp.				○				○	r	○		○	r	○		○		○		
12			イヌク	イヌク	ヒメシズク	<i>Dactylopusia caudata</i> var. <i>caudata</i> f. <i>caudata</i>					○			r											○	
13					ヒメシズク	<i>Caulerpa filicoides</i>	r	○	r	○	+	r	○		+	○	5	○	+	○	r	○	r	○	r	○
14					ヒメシズク	<i>Caulerpa lentillifera</i>																			r	
15					ヒメシズク	<i>Caulerpa nummularia</i>				○																
16					ヒメシズク	<i>Caulerpa oligophylla</i>																			r	
17					ヒメシズク	<i>Chaetoptera ovata</i> f. <i>ovata</i>										○					○	r	○		○	
18					ヒメシズク	<i>Chaetoptera ovata</i> f. <i>ovata</i> E. S. S.		○			○			r	○										○	
19					ヒメシズク	<i>Caulerpa taxifolia</i>				r																
20			ハノア	ハノア	ウチリウ	<i>Halimeda discoides</i>	r		r	○				r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	
21					ウチリウ	<i>Halimeda incrassata</i>				○		r	○		r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	
22					ウチリウ	<i>Halimeda opuntia</i>	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	+	○	r	○	r	○	r	○	+	
23					ウチリウ	<i>Halimeda</i> sp.		○	○	r	○	○	○	○	r	○	○	○	○	r	○	○	○	○	5	
24					ウチリウ	<i>Rhipilia</i> sp.	r																			
25					ウチリウ	<i>Avanvillaea</i> sp.			r							○	r				○	○				
26					ウチリウ	<i>Chlorodesmis fastigiata</i>		○	r	r		r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	
27					ウチリウ	<i>Ulotea javensis</i>	r	○	r	○	r		r		r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	
28					ウチリウ	<i>Ulotea orientalis</i>									r	○	r	○		○						
29			ヒメ	ヒメ	ウチリウ	<i>Codium intricatum</i>										○							r	○	○	
30					ウチリウ	<i>Codium</i> sp.																	r			
31			ヒメ	ヒメ	ウチリウ	<i>Eryopsis pennata</i> var. <i>secunda</i>															r					
32					ウチリウ	<i>Eryopsis</i> sp.																			○	
33			ウチリウ	ウチリウ	ウチリウ	<i>Bometella nitida</i>				r	○	r				○				○	r	○	r	○	r	
34					ウチリウ	<i>Bometella sphaerica</i>			r	r		r	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
35					ウチリウ	<i>Cymopolia vanbosseae</i>		○				○	r		r	○	r	○	○	○	○	○	○	○	○	
36					ウチリウ	<i>Neomeris annulata</i>	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	
37			ウチリウ	ウチリウ	ウチリウ	<i>Acetabularia dentata</i>	r	○		○	r	○			○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	
38					ウチリウ	<i>Acetabularia ryukyensis</i>								○												
39					ウチリウ	<i>Halicoryne wrightii</i>	r	○			○															
40	褐藻植物	褐藻	アサギク	アサギク	ウチリウ	<i>Dictyosphaeria polyphoides</i>														r				r	○	
41					ウチリウ	<i>Dictyota dentata</i>										○									○	
42					ウチリウ	<i>Dictyota</i> sp.	+	○	+	○	+	○	r	○	+	○	+	○	+	○	+	○	r	○	+	
43					ウチリウ	<i>Lobophora variegata</i>	r	○	r	○	+	○	r	○	r	○	+	○	r	○	+	○	r	○	+	
44					ウチリウ	<i>Padina melaleuca</i>	r									r		r		r	○	r		r		
45					ウチリウ	<i>Padina</i> sp.	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	+	○	r	○	+	○	+	○	+	
46					ウチリウ	<i>Spatoglossum latum</i>										r										
47					ウチリウ	<i>Styopodium zonale</i>			r	r											+				r	
48					ウチリウ	<i>Zonaria diestrogiana</i>					10				○							○				
49					ウチリウ	<i>Zonaria stipitata</i>															r					
50			ウチリウ	ウチリウ	ウチリウ	<i>Colpomenia sinuosa</i>																		r		
51					ウチリウ	<i>Hydrocoleus clathratus</i>																		r		
52			ヒメ	ヒメ	ウチリウ	<i>Hormophysa cuneiformis</i>	10	○	20	○	5	○	5	○	5	○	20	○	5	○	5	○	5	○	10	○
53					ウチリウ	<i>Sargassum pinnatifidum</i>			10		+					r	○	50	○	20	○	r	○	20	○	
54					ウチリウ	<i>Sargassum polyporum</i>			+							r									○	
55					ウチリウ	<i>Sargassum</i> sp.	30	○	40	○	35	○	10	○	30	○	10	○	20	○	15	○	20	○	30	○
56					ウチリウ	<i>Turbaria conoides</i>															r					
57					ウチリウ	<i>Turbaria ornata</i>			r	○		○									r	○		○		

注 1) 枠内における数値は被度(%)を表す。rは 1%未満を、+は 5%未満であることを表す。
 注 2) 周辺における○は出現を示す。
 注 3) 和名、種の配列は「日本産海藻目録 改訂版」(2015年・吉田忠生・鈴木雅大・吉永一男を参考にした)。

表 6.1.1-3 海域植物の生育状況調査結果(その2)

No.	門	綱	目	科	和名	学名	夏季 (R7.9)										冬季 (R8.1)											
							St. 1		St. 2		St. 3		St. 4		St. 5		St. 1		St. 2		St. 3		St. 4		St. 5			
							枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺	枠内	周辺		
58	紅藻植物	紅藻	カハラウ	リテカハラ	Actinotrichia fragilis	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	○	r	○	r	○	r	○	r	○				
59				ビロウドカハラ属	Galaxaura sp.			r	○	○			r	○	r	○	○		○	r	○	r	○					
60				カハラ	Tricleocarpa jejuensis							r					r	○	r	○	r	○						
61			トカサ	ミカサ属	Trichogloopsis sp.																r							
62			ツノモ	ツノモ	Anphiroa fragilissima																r							
63				カハラ属	Anphiroa sp.				○		○			○														
64				トキサズミ	Jania adhaerens						r						r											
65				トキサズミ属	Jania sp.	r	○	r	○	+	○	r	○		○	+	○	r	○	r	○	r	○					
66				無節ツノモ類	Corallinaceae	+	○	+	○	+	○	+	○	+	○	5	○	+	○	+	○	+	○					
67			ツノモ	ツノモ	Gelidium acerosa	r																						
68				ツノモ属	Gelidium sp.								r															
69				ツノモ科	Gelidiaceae																							
70			トキサズミ	トキサズミ	Asparagopsis taxiformis			r		+		r	○				○		○	r	○	r	○					
71			スギノ	スギノ	Hypnea sp.	r																○	r					
72				ツノモ科	Pyrosomellaceae	r				+	○	r	○	+	○	r	○		○	+	○	+	○					
73				トキサズミ	Portiera horsemanni							○																
74			トキサズミ	トキサズミ	Gracilaria sp.																							
75				ツノモ科	Ceratodictyon spongiosum		○	r	○		○	r	○	r	○	r	○	+	○		○		+	○				
76				ツノモ科	Gelidiopsis sp.	r						r		r							r							
77			トキサズミ	トキサズミ	Phlocladia divaricata																	r						
78			トキサズミ	トキサズミ	Spyridia filamentosa											r	○	r	○	r	○	r	○					
79				トキサズミ科	Ceramiales											r						r						
80			トキサズミ	トキサズミ	Acanthophora spicifera																		○					
81				トキサズミ	Digenea simplex							r										r	○					
82				トキサズミ	Laurencia marianensis								r															
83				トキサズミ属	Laurencia sp.	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○	r	○		○	r	○	r	○					
84				トキサズミ	Levillaea jungermannioides							r		r														
85				トキサズミ	Tolyptoclada glomerulata							r																
86				トキサズミ科	Rhodomelaceae			r						r								r						
87				トキサズミ目	CERAMIALES		○		○		○	r	○	r	○	r							r					
88				微小紅藻類	PHODOPHYCEAE		○		○		○	r	○	○	○	r	○		○	r	○		○					
89	種子植物		トキサズミ	トキサズミ	Halodule pinnatifolia							5	○									10	○					
90				トキサズミ	Thalassia hemprichii		○					30	○									10	○					
91				トキサズミ	Halophila major		○					+	○									5	○					
						出現種数	26	27	30	29	29	25	38	31	29	31	38	46	33	38	34	41	45	47	36	37		
						海藻類の被度(%)	0	-	0	-	0	-	35	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	25	-	0	-
						瓶草類の被度(%)	45	-	80	-	65	-	60	-	50	-	50	-	80	-	60	-	55	-	70	-	-	

注 1) 枠内における数値は被度(%)を表す。rは 1%未満を、+は 5%未満であることを表す。

注 2) 周辺における○は出現を示す。

注 3) 和名、種の配列は「日本産海藻目録 改訂版」(2015年・吉田忠生・鈴木雅大・吉永一男を参考にした)。

		
イチイズタ	ナガミズタマ	ウスガサネ
		
カサノリ	ヤバネモク	カラクサモク
		
フクレソゾ	マツバウミジグサ	リュウキュウスガモ
		
オオウミヒルモ		

図 6.1.1-3 確認された重要な種(海草藻類)

表 6.1.1-5 各調査地点の海域植物の生育状況（面積・被度）

調査地点	重要な海草藻類	供用時		供用時	
		令和7年9月		令和8年1月	
		面積(m ²)	被度(%)	面積(m ²)	被度(%)
St.1	海草類(合計)	0.00	0	0.00	0
	ウスガサネ			0.00	<1
	ヤバネモク	0.87	10	0.99	20
	カラクサモク			0.02	<1
	海藻類(合計)	0.87	10	1.02	20
	合計	0.87	10	1.02	20
St.2	海草類(合計)	0.00	0	0.00	0
	イチイズタ	0.01	<1		
	ウスガサネ			0.01	<1
	ヤバネモク	0.74	20	0.12	5
	カラクサモク	0.38	10	12.69	50
	海藻類(合計)	1.12	30	12.82	55
	合計	1.12	30	12.82	55
St.3	海草類(合計)	0.00	0	0.00	0
	ナガミズタマ	0.00	<1		
	ヤバネモク	0.19	5	0.27	5
	カラクサモク	0.12	<5	1.31	20
	海藻類(合計)	0.31	10	1.58	25
	合計	0.31	10	1.58	25
St.4	マツバウミジグサ	2.54	5	4.47	10
	リュウキュウスガモ	10.88	30	8.79	10
	オオウミヒルモ	0.38	<5	2.88	5
	海草類(合計)	10.88	40	10.31	25
	ナガミズタマ	0.01	<1	0.01	<1
	ウスガサネ			0.02	<1
	ヤバネモク	0.32	5	0.35	5
	カラクサモク			0.05	<1
	海藻類(合計)	0.33	5	0.43	5
	合計	11.20	45	10.74	30
St.5	海草類(合計)	0.00	0	0.00	0
	ナガミズタマ			0.00	<1
	ウスガサネ	0.00	<1	0.00	<1
	ヤバネモク	0.28	5	0.43	10
	カラクサモク			1.54	20
	フクレソゾ	0.00	<1		
	海藻類(合計)	0.29	5	1.98	30
合計	0.29	5	1.98	30	

注 1) <5は5%、<1は0として合計被度を算出した。

注 2) 混生している海草類の面積は、混生種において重複している。

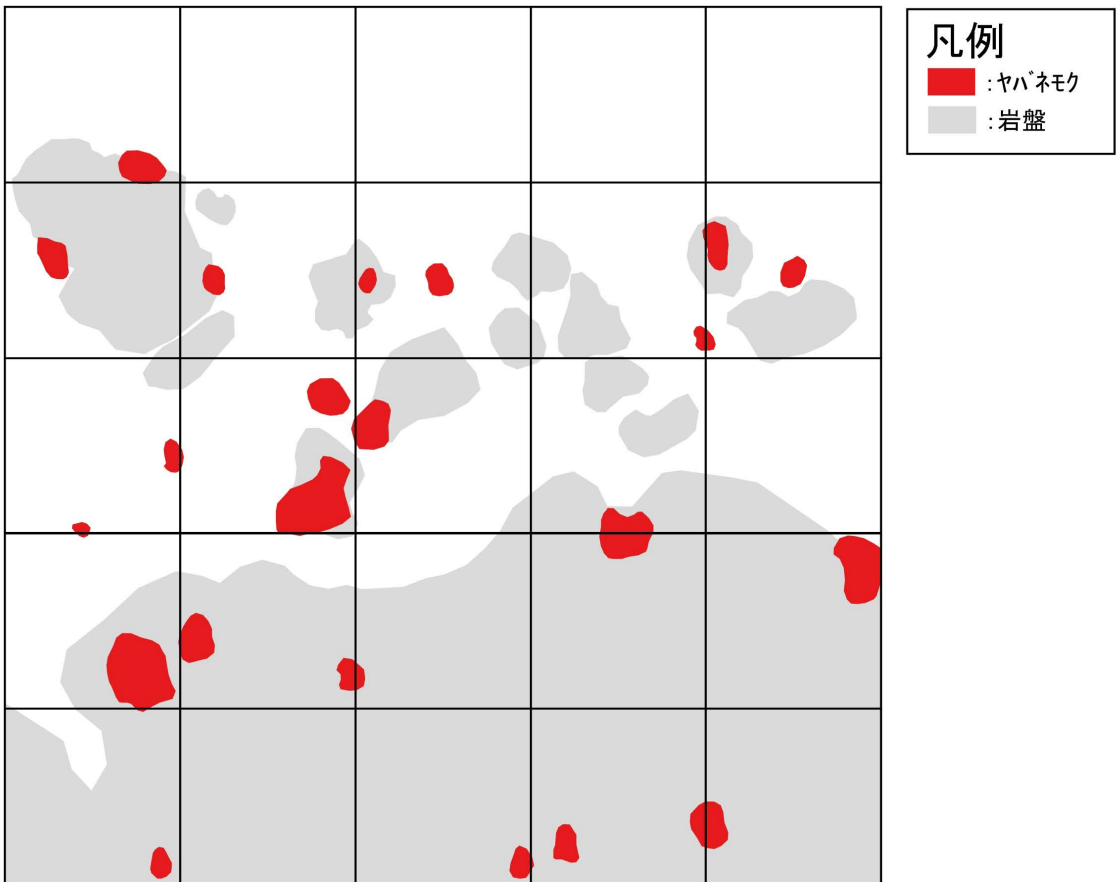


図 6.1.1-4 コドラート内の確認状況 St. 1 : 夏季(R7.9)

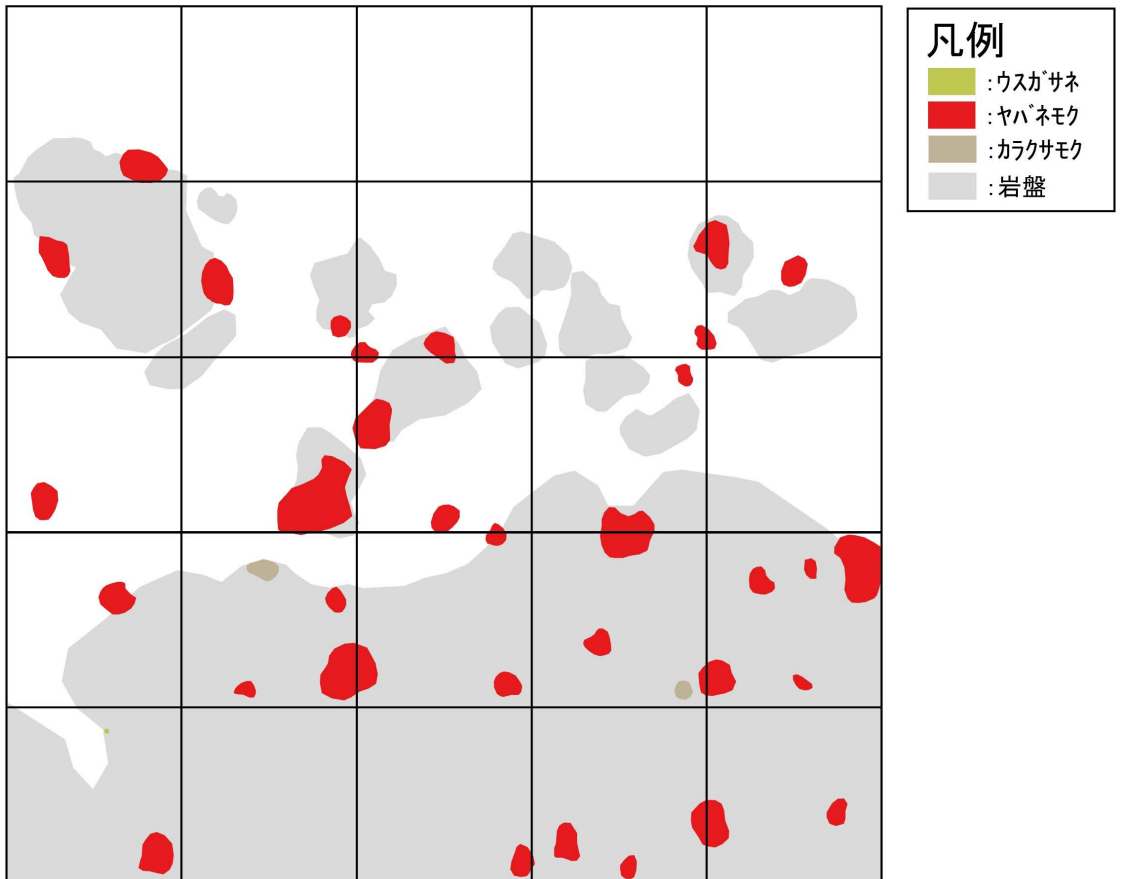
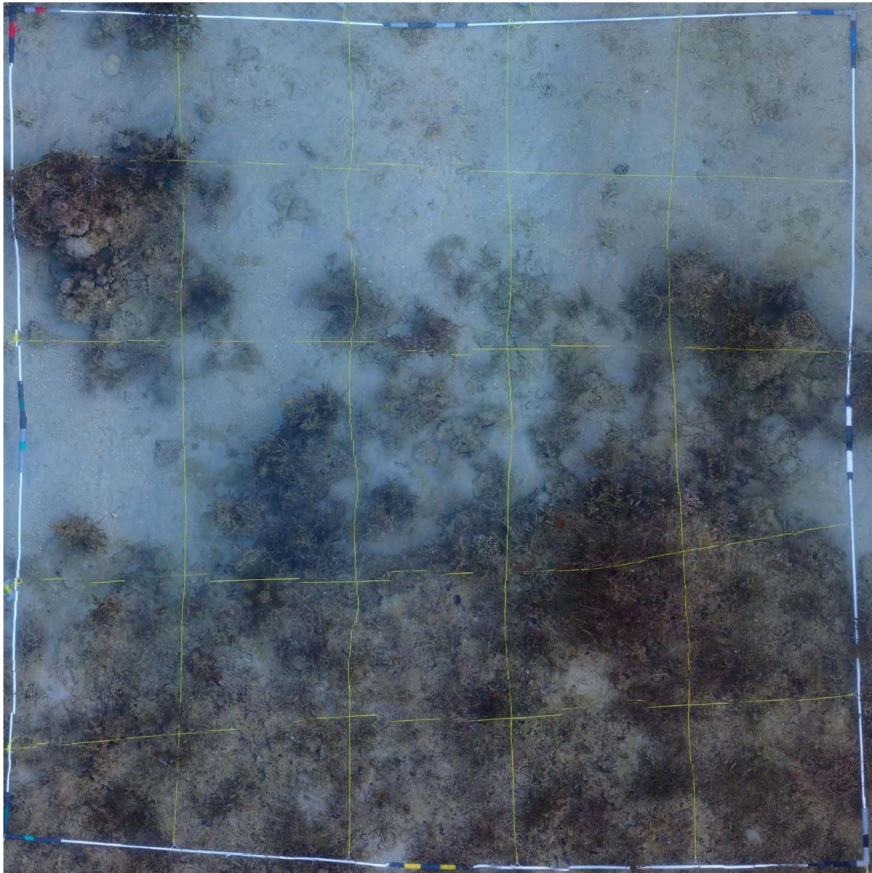
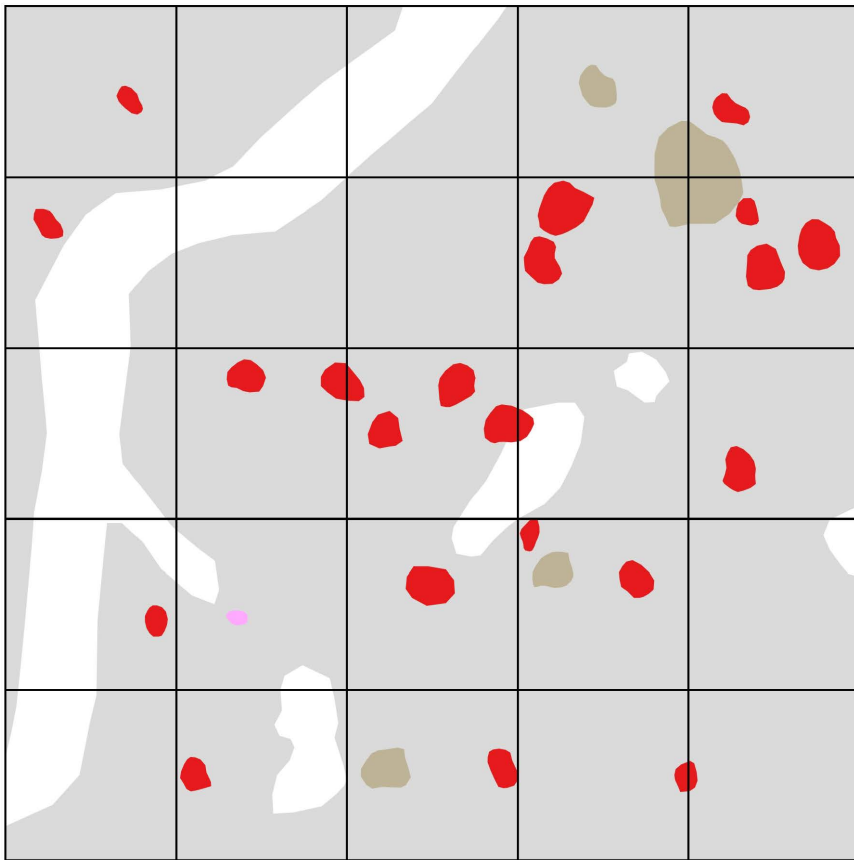
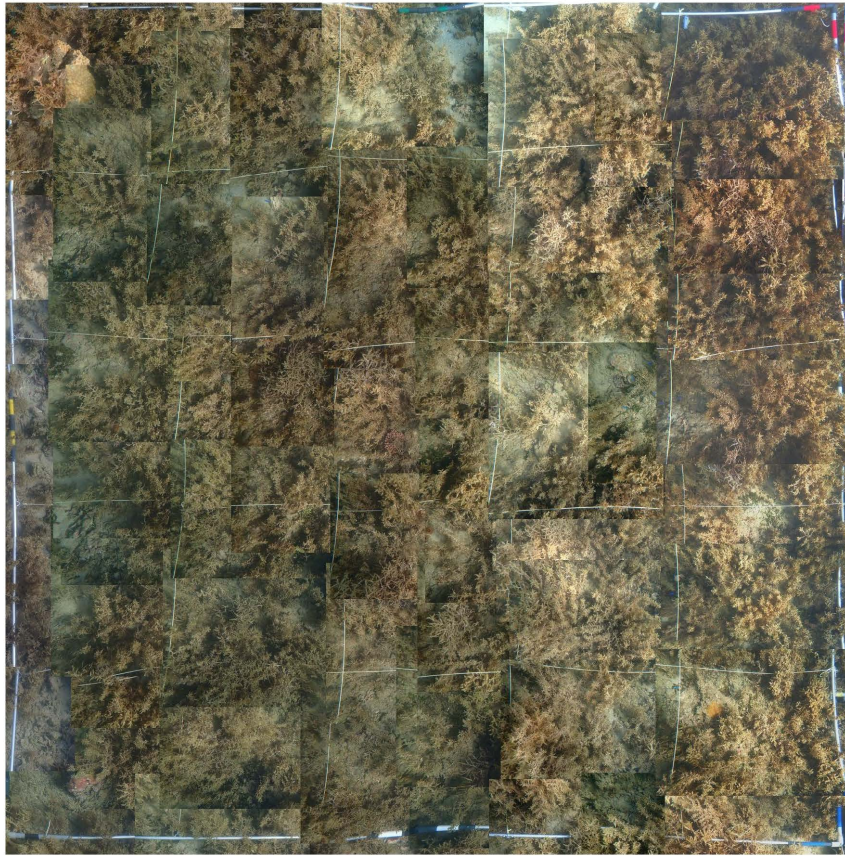


図 6.1.1-5 コドラート内の確認状況 St. 1 : 冬季 (R8.1)



- 凡例**
- : イチイスダ
 - : ヤハネモク
 - : カラクサモク
 - : 岩盤

図 6.1.1-6 コドラート内の確認状況 St. 2 : 夏季 (R7.9)

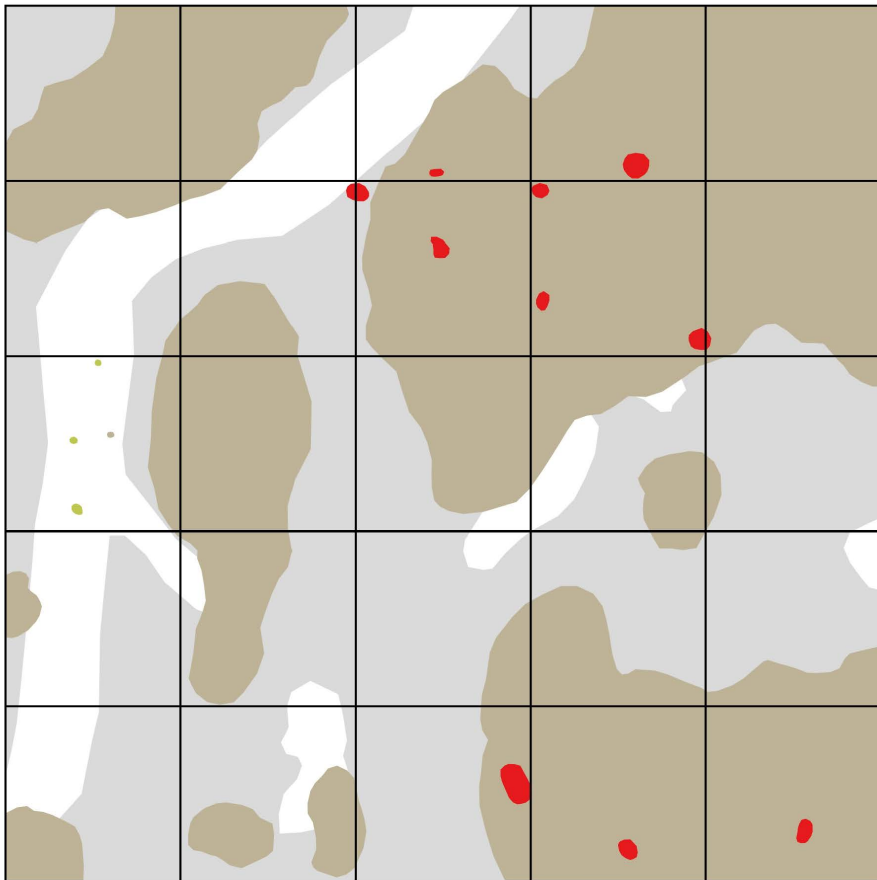
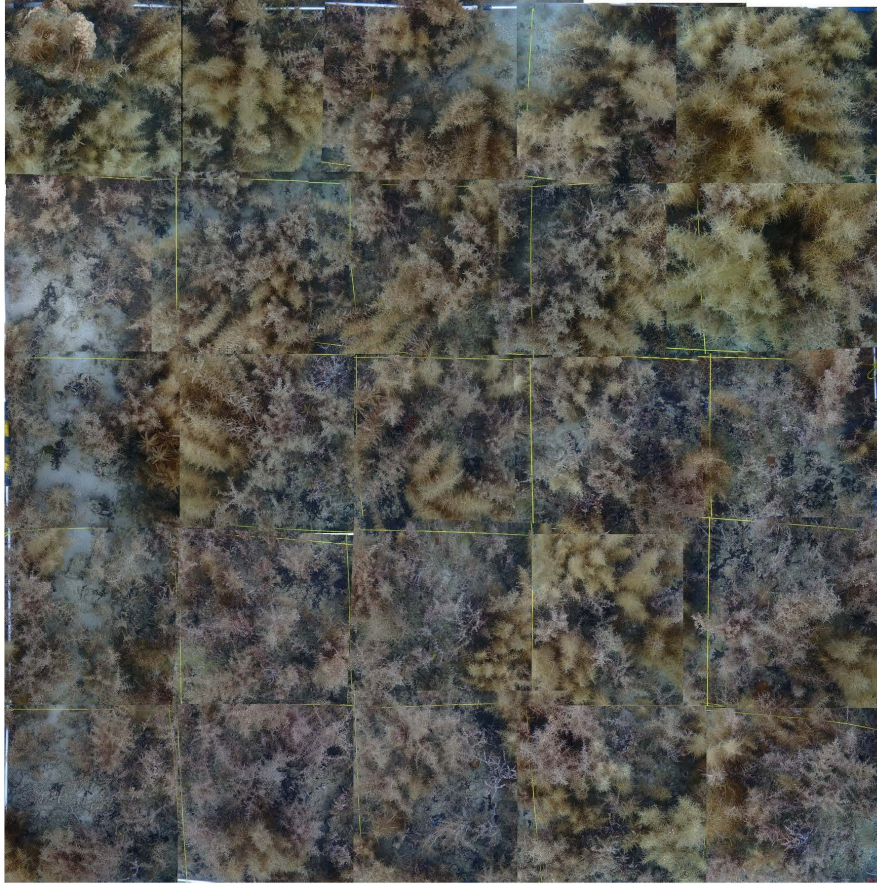
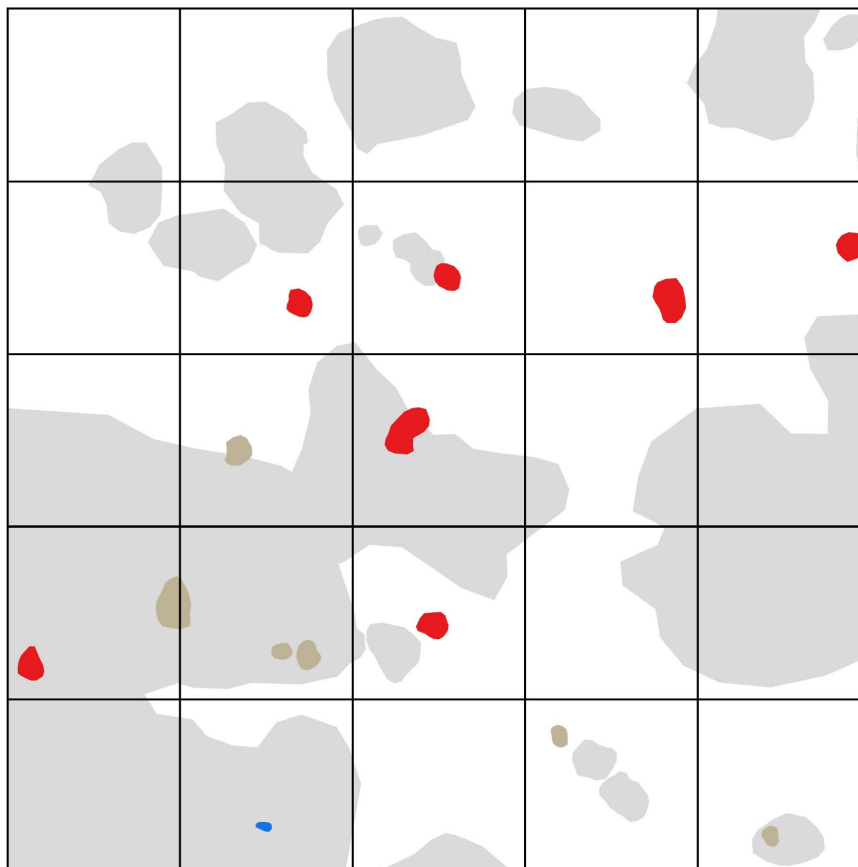
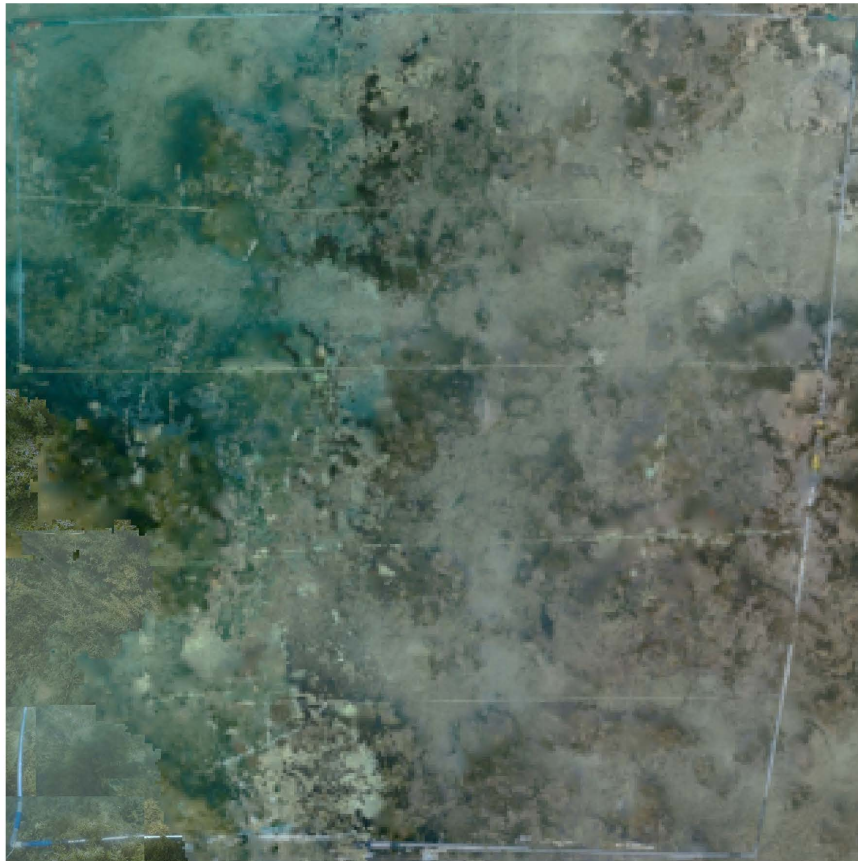
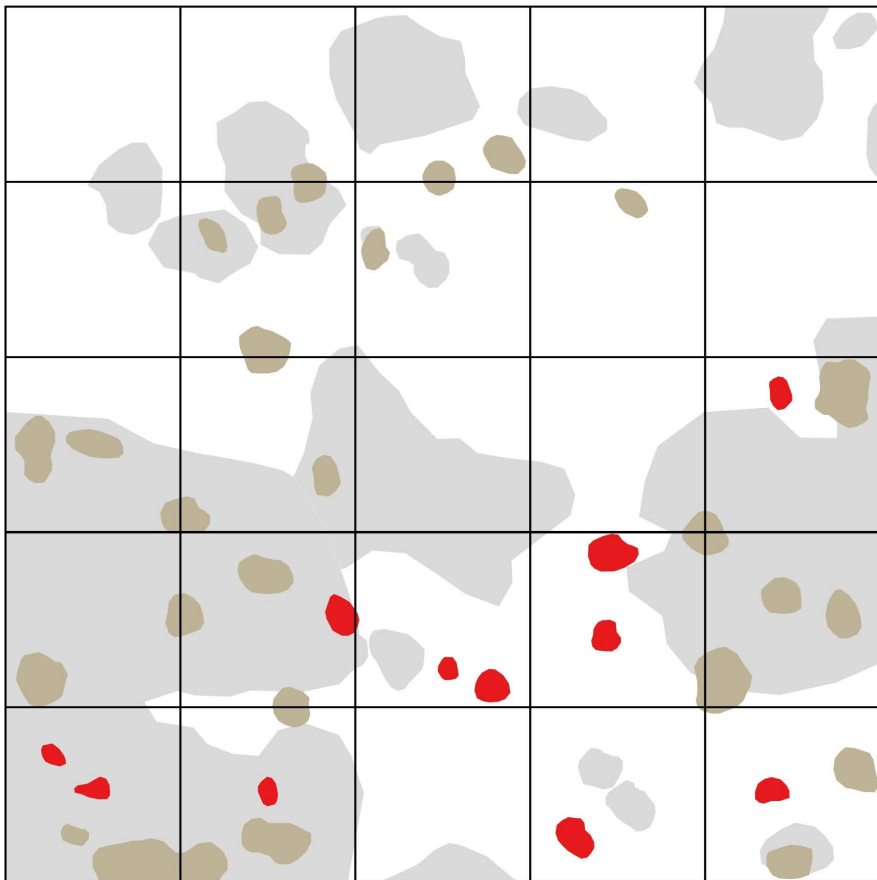
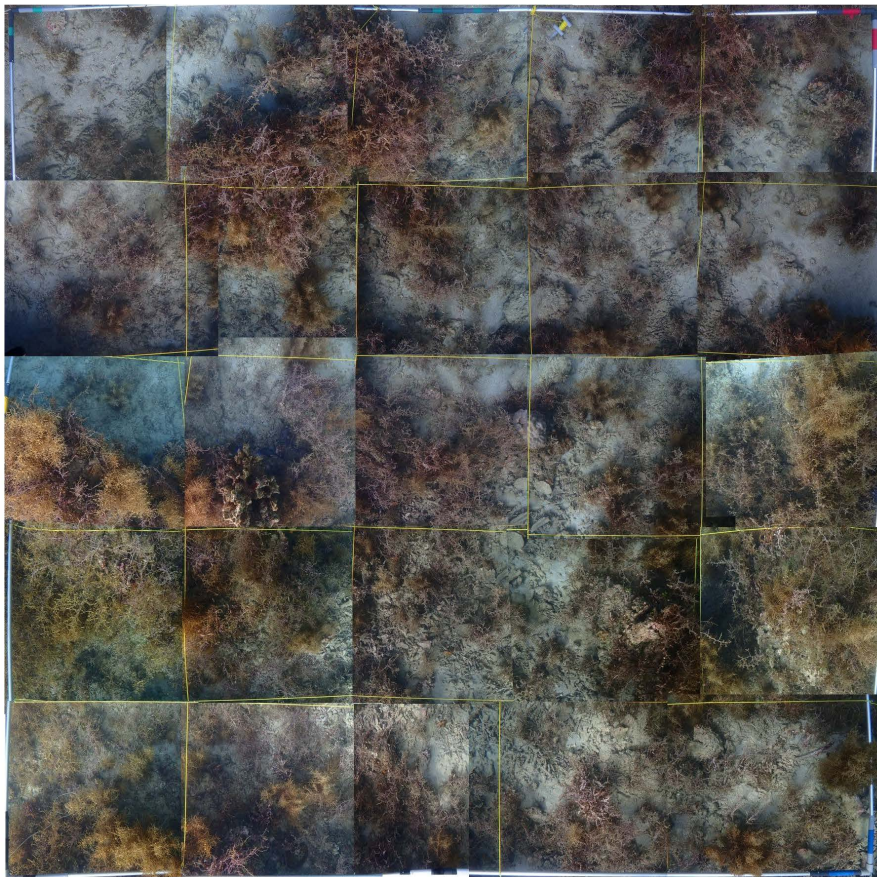


図 6.1.1-7 コドラート内の確認状況 St.2 : 冬季 (R8.1)



- 凡例**
- : ナガミスタマ
 - : ヤハネモク
 - : カラクサモク
 - : 岩盤

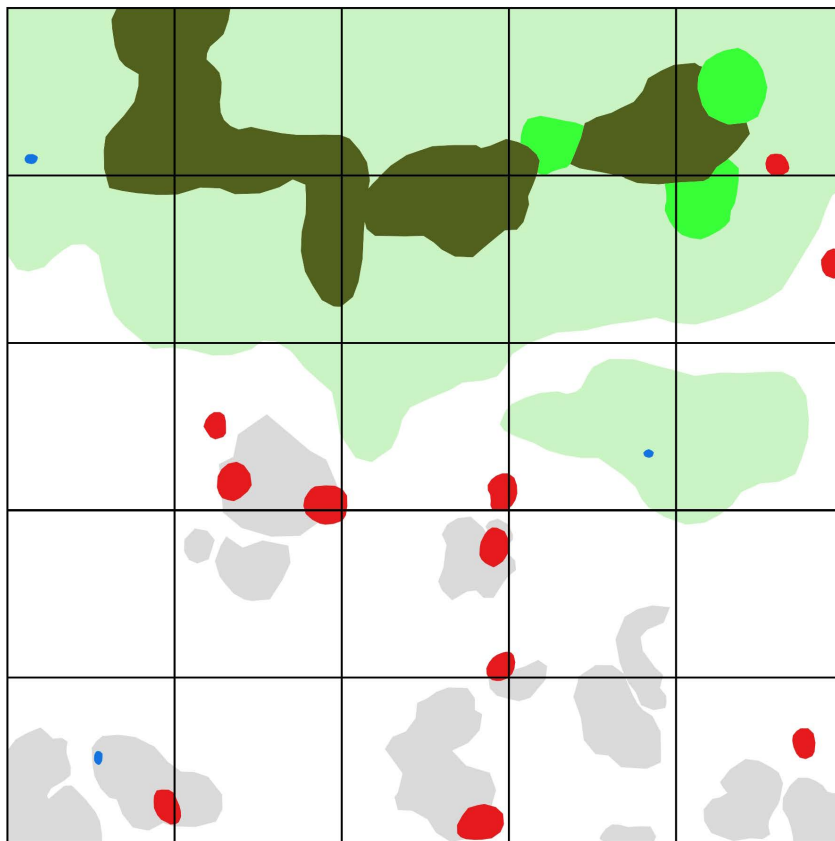
図 6.1.1-8 コドラート内の確認状況 St.3 : 夏季 (R7.9)



凡例

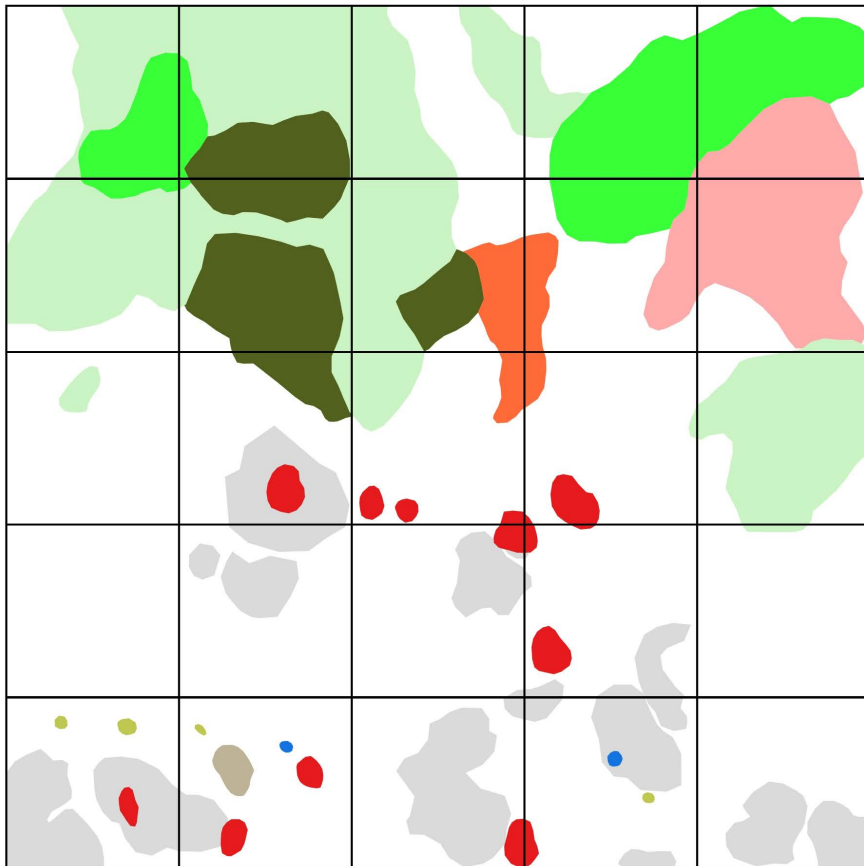
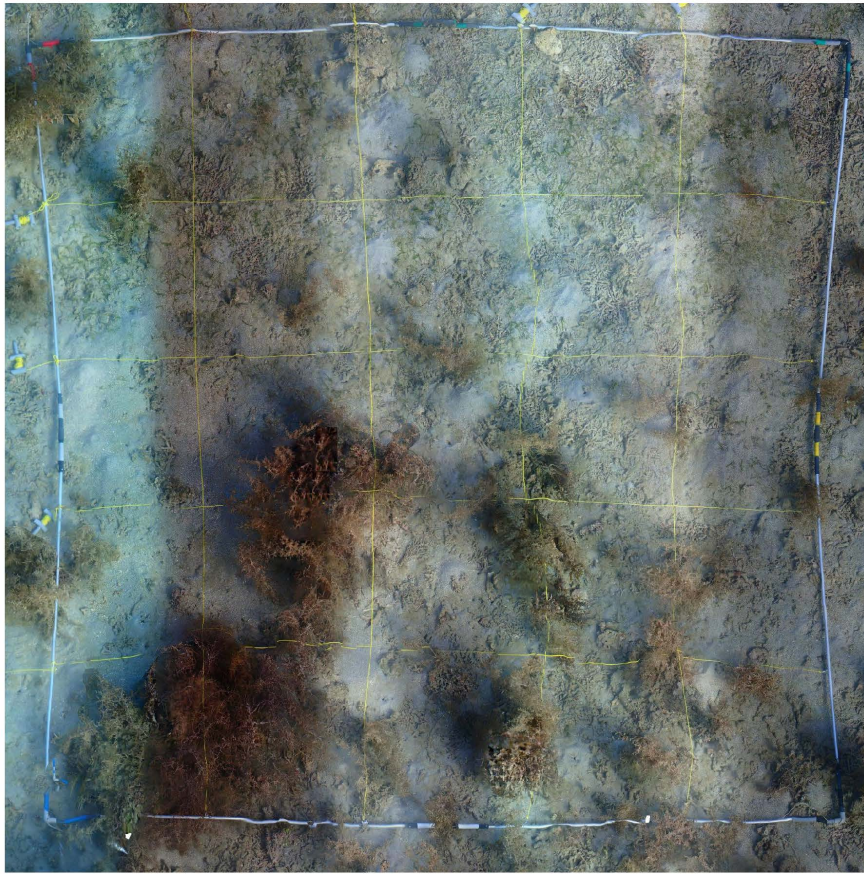
- : ヤハネモク
- : カラクサモク
- : 岩盤

図 6.1.1-9 コドラート内の確認状況 St. 3 : 冬季 (R8.1)



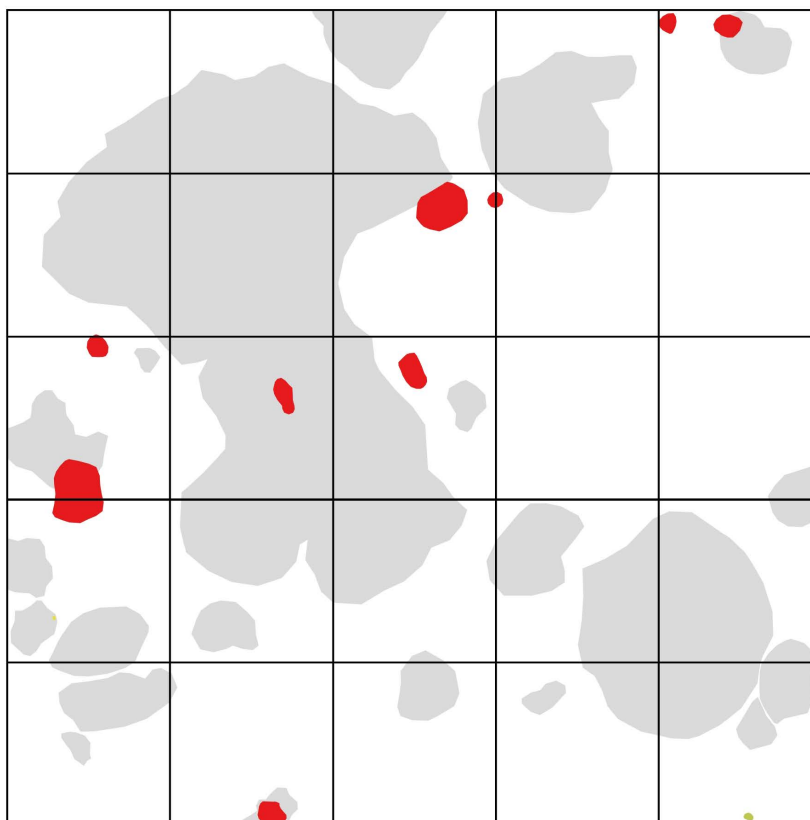
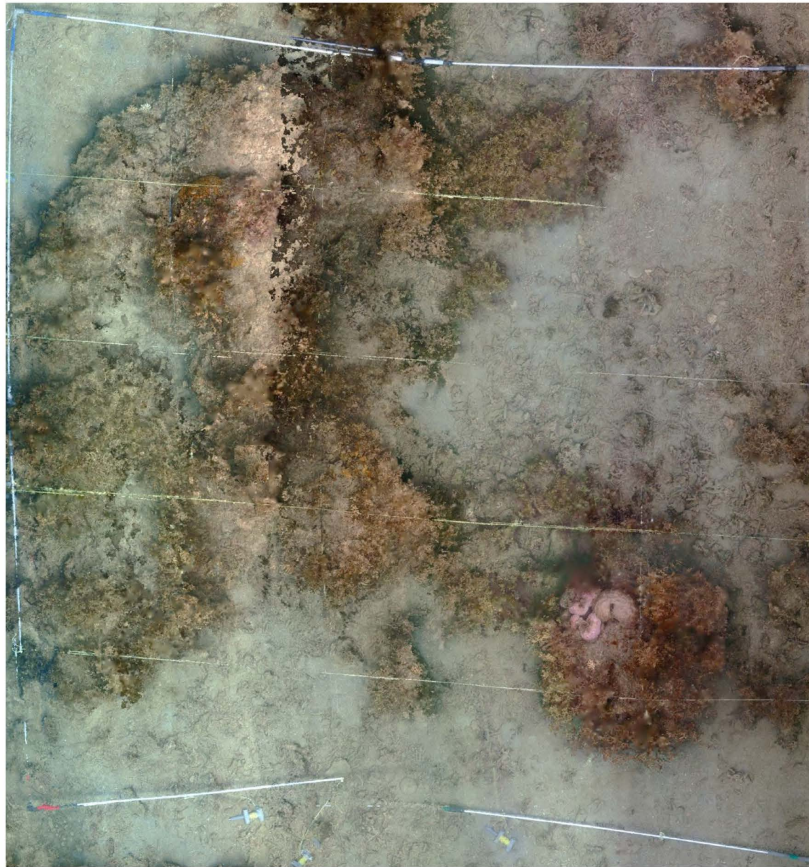
- 凡例**
- : ナガミズタマ
 - : ヤバネモク
 - : リュウキュウスガモ
 - : リュウキュウスガモ・マツバウミシグサ混生
 - : リュウキュウスガモ・マツバウミシグサ・オオウミヒルモ混生
 - : 岩盤

図 6. 1. 1-10 コドラート内の確認状況 St. 4 : 夏季 (R7. 9)



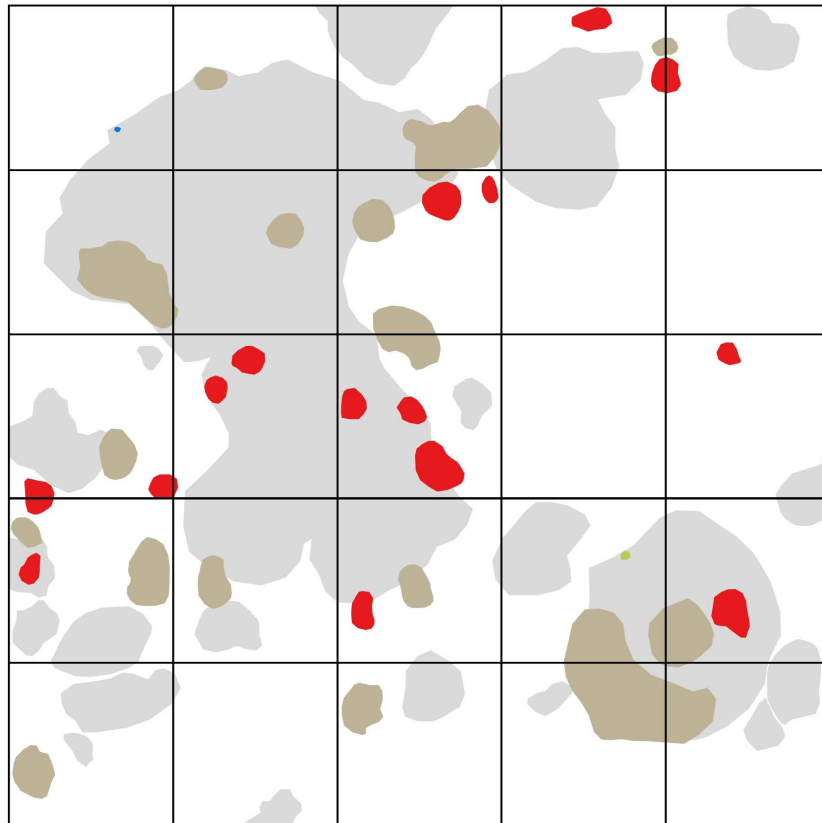
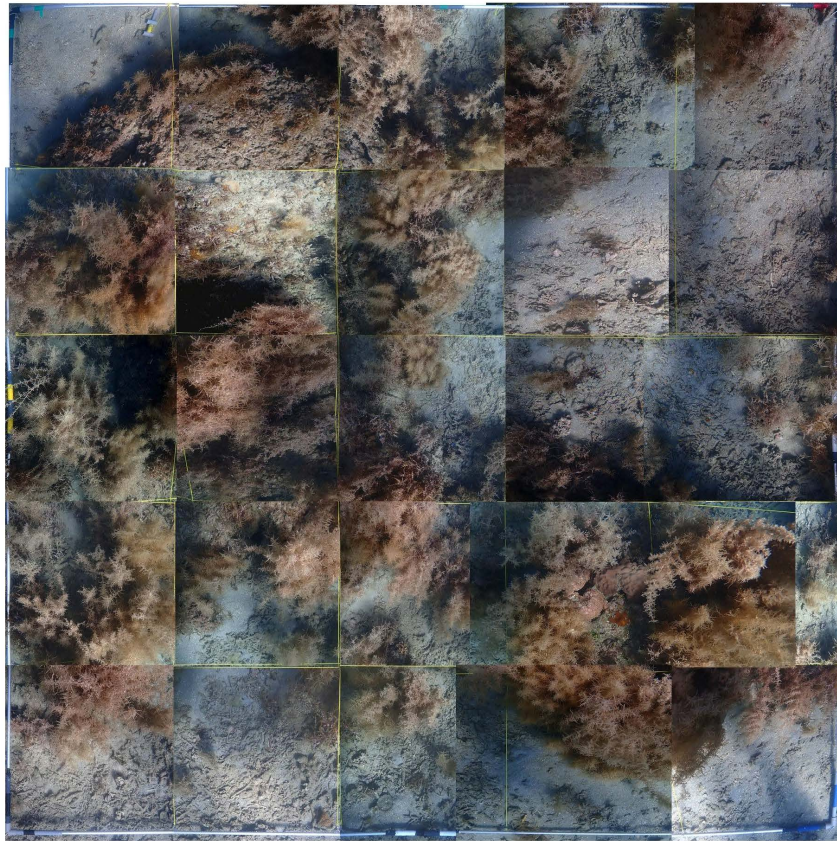
- 凡例**
- : ナガミスタマ
 - : ウスガサネ
 - : ヤハネモク
 - : カラクサモク
 - : マツハウミジグサ
 - : リュウキュウスガモ
 - : マツハウミジグサ・オオウミルモ混生
 - : リュウキュウスガモ・マツハウミジグサ混生
 - : リュウキュウスガモ・マツハウミジグサ・オオウミルモ混生
 - : 岩盤

図 6.1.1-11 コドラート内の確認状況 St. 4 : 冬季 (R8.1)



- 凡例**
- :ウスカサネ
 - :ヤバネモク
 - :フクレソゾ
 - :岩盤

図 6. 1. 1-12 コドラート内の確認状況 St. 5 : 夏季 (R7. 9)



- 凡例**
- : ナガミスタマ
 - : ウスガサネ
 - : ヤバネモク
 - : カラクサモク
 - : 岩盤

図 6. 1. 1-13 コドラート内の確認状況 St. 5 : 冬季 (R8. 1)

6.2 海域動物

6.2.1 海域動物の生息状況

1) 調査時期

調査は表 6.2.1-1 に示す時期に行いました。

表 6.2.1-1 調査時期

季節	調査日時
夏季	令和7年9月18日、19日
冬季	令和8年1月15日、16日

2) 調査地点

調査は、し尿処理施設の処理水の放流先周辺の海域5地点で実施した。その調査位置は図 6.2.1-1 に、調査地点の緯度・経度は表 6.2.1-2 に示すとおりです。

表 6.2.1-2 調査地点の緯度・経度

調査地点	北緯	東経
St.1		
St.2		
St.3		
St.4		
St.5		

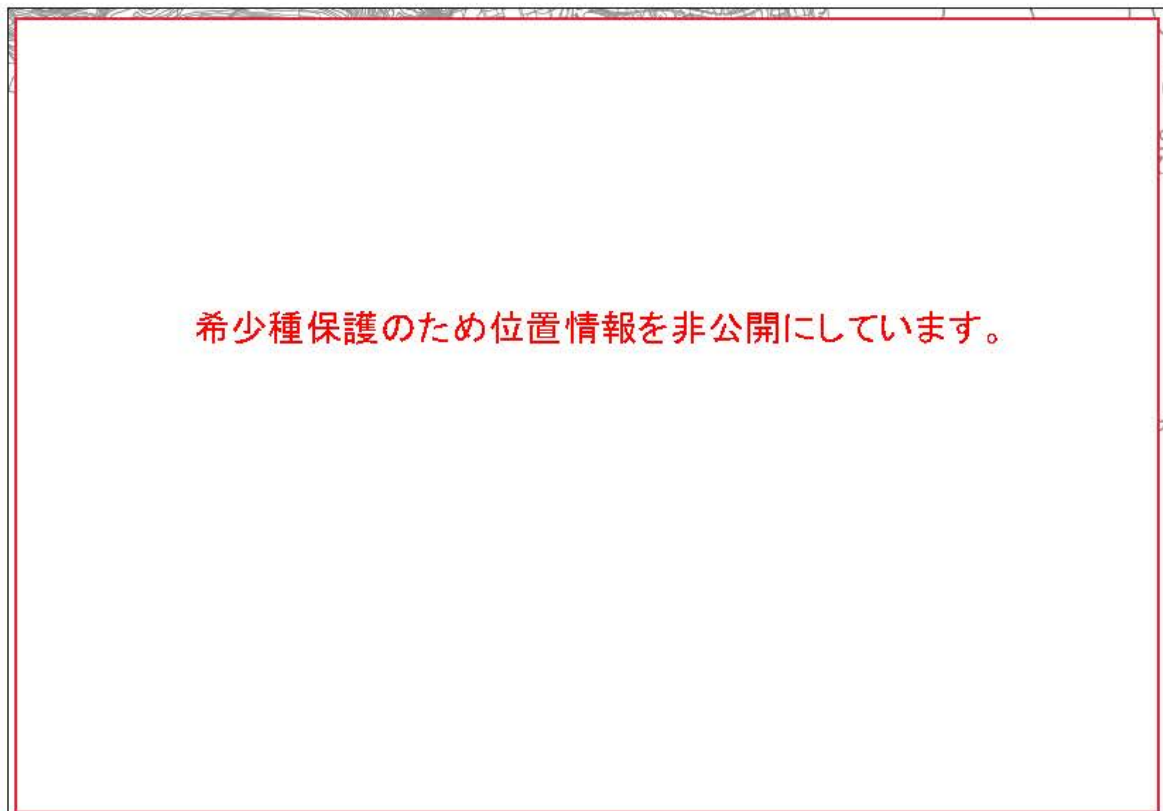


図 6.2.1-1 調査地点